

大学女性協会編『災害の記憶をつなぐ』（すびか書房、216 頁、定価 1980 円、2023 年 5 月刊行）刊行メモ

窪田憲子

<刊行までの経緯>

・2020 年生涯学習委員長嶋田君枝の発案で、全国の支部の会員に声をかけ、自分が体験した災害の記録、記憶や、各地に伝わる災害の記録等についての原稿を集め、一冊の本とすることを委員会で決定。

・次の委員長 渡部由紀子の時に、全会員によびかけた。しかし、当初はあまり投稿がなく、支部長に何回か支部会員に投稿を促していただくことを依頼。その結果、かなりの数の原稿が会員から寄せられた。その後 2022 年度からは曾田佳代子が委員長になり、事業を続行。

・支部や委員会の協力で、災害に関する冊子（神戸支部『その後の十年』（2005 年）、仙台支部だより『けやき』第 3 号（震災特別号、2011 年）、茨城支部『茨城支部だより』（2011 年度、第 1 号）、『災害を語る会』（2018 年））が提供され、その中の原稿を使わせていただく。

・上記の経緯を経て、最終的には 70 名以上の方の原稿を掲載。

・出版社の選定・・・原稿が集まったのは、丁度コロナの時期だったので、事業縮小した出版社が多く、出版社探しは難航したが、最終的にすびか書房に依頼した。出版費用を出し、協会で 500 部受け取るという条件。2023 年 5 月の大学女性協会総会時に刊行。

<本の配布——会員向け>

・希望する会員に配布。また、出版を記念した寄付金も募集（目標額 100 万円）した。2 か月足らずで 500 冊は配布を完了した。寄付金もおおむね目標額に近づいてきた。

<本の献呈——諸機関へ>

- ・支部から諸機関へ・・・約 70 の関係諸機関に支部から献呈していただく。
- ・協会本部から・・・内閣府、文科省、関連女性団体、防災研究をしている大学・高専、研究者に献呈。
- ・その他、会員が個人的に関係諸機関への寄贈を多くして頂いている。

<本書の内容、特徴>

・実際に災害を体験した方がたの原稿が多いので、災害の実態がなまなましく伝えられてい

る。

- ・全国に支部があるため、東日本大震災、阪神淡路大震災、新潟地震、熊本地震等、経験した災害が全国的な広がりをもっている。

- ・防災に肝要な女性の視点・・・会員の実際の体験から、防災には、生活者の女性の視点がいかに重要であるのか、という提言が強く出ている。

- ・多彩な原稿・・・元常総市長の長谷川典子さまの自発的な避難所開設、避難所支援、日本の災害についての海外での発表、地方紙に掲載された時事評論の記事等、大学女性協会の特徴的な原稿もある。